

2024.05.30. 木曜礼拝  
「レビ記にある宝物 安息の年&ヨベルの年」

レビ記 25章

私たちの中には、今週は大変な一週間の人もいました。でも、ここにいること、互いに礼拝できることは、主よ、なんと祝福でしょうか。あなたを礼拝し、あなたにすべての称賛と栄光を捧げます。何が起ころうとも、主よ、喜びはあなたから、あなただけから来ることを、平安はあなたからのみもたらされ、私たちの命はあなたからもたらされることをあなたに感謝します。世はそれを奪うことはできません。主よ、あなたを賛美し、礼拝と交わりのため集うこの時間を感謝します。主よ、私たちがあなたの御言葉の中で時間を過ごせることを感謝します。この教えを祝福ください。マック牧師がここに立ち、あなたの御言葉を忠実に伝えることを祝福し、主よ、私たちに理解を与えてくださいますように。主よ、ありがとうございます。イエスの御名によって、アーメン。

主をほめたたえます。では、ありがとうございます。ご着席ください。じゃあ、こんばんは。ここに置くことはなんと祝福でしょうか。本当に。この木曜日の夜、皆さんがここに集まってくださったことをとても嬉しく思います。JD フェラグ牧師の代わりに、今週の木曜日の夜、カルバリー・カネオへの聖書の学びへようこそ。通常、「ダニエル書」を学ぶのですが、主の御心なら、JD 牧師は来週戻ります。私の牧師が戻ってくるのを物凄く楽しみにしています。ー（笑）ー 私ほど彼を恋しがっている者はいませんよ。ー（笑）ー 聞きましたか？ そうなんです。また、お知らせしておきます。へへへ。来週の祈り会について、確か来週だけ？ そう、来週の火曜日、夜7時から、この礼拝堂（聖域）で行います。可能なら、是非来てくださって、一緒に祈りましょう。JD 牧師の短いメッセージがあるので、それも楽しみにしています。私たちがひとつの体として祈れるよう、共同体として会えるのを楽しみにしています。それが聖人の祈りです。

「正しい人（義人）の熱心な祈りは、働くとき大きな力があります。」（ヤコブ 5：16）

それを覚えておいてください。義は、キリストから生じます。それでは！ 今夜の学びを始める前に、御座にいき、今日の学びへの主の祝福をお願いしましょう。

愛する天のお父様、本当にありがとうございます。感謝してもしきれませんが、私たちは大胆にあなたの御座に近づきます。私たちが愛しておられるから、答えてくださると知っています。あなたは私たちにそうするように命じられました。主よ、私たちは今そうします。あなたが今夜私たち全員にご用意されているこの学びをどうか祝福してくださいますように。私たちがあなたの御言葉に聞く耳を持ち、心に留め、忠実に受け取れますように。ですから主よ、あなただけがお出来になる通り、あなたのパワーと御力、聖霊の御力によって語ってください。救世主イエシュア・イエスの力強い御名によって祈ります。アーメン。主を褒め称えます。それでは！ OK！！今夜は、「レビ記」のミニシリーズの最終回をします。今夜の学びは、おもに25章を取り上げます。サブタイトルは、『安息年とヨベルの年』

そしてもちろん、その章に含まれるすべてを網羅できるはずはありません。それは分かっているよね？ 私は、免責事項として言いました。忘れていたものがあるでしょうから。（言わないで！！）どうなるか分かるでしょ？ でもね、神はとにかく祝福くださいます。しかし、その前に、私たちが本当に神の恵みを必要としていることを確認したいと思います。つまり、生け贄制度自体について考えるだけでも、それを維持するのは民にとって非常に難しいことでした。神がそれを維持する方法を彼らに与えなかったとは言いませんけど、私の言っている意味は分かりますね？ あれは大変でした。そして時が進み、より多くの律法が生まれ、罪はそれに従うようになります。分かります？ これが正に聖典が語っていることです。律法はこれを反逆と呼ぶ。それを考えてみると、律法に対する反逆だけでなく、より重要なのは、それをお与えになったお方に対する反逆です。わかるでしょ？ 私たちは時に、誰が私たちに掟を与えたのかを忘れて、掟を破ることに囚われてしまう。よく分かりますよね？（会衆：はい！）だからイエスの御名が、自動的に攻撃的になる理由ですよ。イエスを本当に知らない人たちでさえ、その御名を言うと、動揺するのです。私たちが知る範囲で、イスラエルの子らについて言えば、神が民を聖なる民として形作られるときの神の神聖さは、言わば、頭痛の種のようなもの、民の頭痛の種でした。つまり、彼らは律法が良いものだと知っていた。私

私たちも、律法が善なのを知っています。私たちは学び続け、そこから多くを得、明らかに、私たちの幸福のために意図された教訓を実践するとき、多くの祝福を受けます。特に、人生という暗い道のりを旅するとき、誰もがそうしなければなりません。でしょ？ 私たちはこの教訓を知っています。はっきりさせておきます。私たちは律法の下にはいません。私たちはそれを知っています。で、私たちは、使徒パウロが言ったように、律法の完璧な道徳と善良さは良いことを知っています。でも、さっき言ったように、それにもかかわらず、私たちには神の恵みが必要です。その多くが。そして、多くの律法が与えられてもなお、律法は何度も何度も示してきました。神がどれほど恵み深くられるかを。本当に昔も、今も。では、安息年について見てみましょう。その後、今夜の学びに関連する聖句を読んでいきます。で、神の御言葉によると、安息年のおもな目的は、土地を労役と果実の収穫から休ませることでした。そして、多くの人が知っているように、この条件は、主が彼らに与えると約束された土地に彼らが入った後にのみ起こります。皆さんついてきていますか？ 読んでいくと、彼らは6年間土地を耕すことになっていましたが、7年目は耕すことができませんでした。これはすべて神の神聖な、言わば経済秩序の一部でした。神以外にこれを組み立て、実際に機能させることはできませんよ。安息年とは、6年の収穫が7年目、そして8年目の大部分をも民を支えることを意味するからです。それが分かりますね？ だから、彼らは、あらゆる面で神に完全に依り頼まねばなりません。それが重要でした。で、神が民にそう告げておいて、決して安心させない、ではありません。皆さん大丈夫ですか？（会衆：はい！）そういう仕組みではまったくありません。神が仰られたのです。それを見ていきます。神は私たちに仰っています。私たちはそれを理解する必要があります。彼らがすべきことは、従い、信頼することでした。すると、主のご栄光を目にする。彼ら全員を養われます。しかし、主がこのようなことをされるのには、他にもいくつかの理由があることも理解する必要があります。実用的な方法で、土地が酷使され荒れ果てるのを防いだ。そのため、土地を保護することができました。でも、それだけでなく、考えてみれば、それはまた、動物や人々を守るためでもありました。でしょ？ 翌年、他の仕事に専念するため、その年の大半を休養することができた。つまり、インフラの改善や、また、安全な交易経路の確立や、家族の世話など、そして最も重要なのは、民の霊的必要性に。それらは、一日の労苦のせいではしばしば見過ごされていました。これらは現実的理由のほんの一部ですが、でも、私たちは皆、それが見えるもの以上であることを知るべきです。では、1節から始める前に、25章23節を見て欲しいと思います。特にこの土地に関することは、私たちにとって非常に重要だからです。神の御言葉が仰られます。

ーレビ 25 : 23ー

土地は、買い戻しの権利を放棄して売ってはならない。土地はわたしのものである。

（神が語っておられます。）

あなたがたは、わたしのもとに在住している寄留者だからである。

私たちは、他のすべてのことと同じように、イスラエルの地をイスラエルの地と呼ぶのが大好きですが、でも土地は主のもので。なぜそうなのかには、理由があります。だから、こんにちのような展開を世界中で目の当たりにするのは。この土地はいかなる選択肢にも入りません。それはイスラエルの子らに与えられた土地です。でも、神の神聖な目的のために、真の生ける神に属します。イスラエルを含む世界は、平和のために土地を分割しようとしています。主は、「それはわたしのものだ」と仰られた。主が主のものだと言われたものは、主のもので。それが私たちに勇気づけるはずですよ。なぜなら、私たちは主のものだから。私たちは主のもので。それを踏まえて、いくつかの節に取り組み、できる限りのことをまとめ、そして、いくつか他の聖句を見て、それにより、いくつかの主要なポイントを生かすのに十分な全体像を描けます。

では、始めましょう。1節、2節から、御言葉をお読みします。

ーレビ 25 : 1ー

主はシナイ山でモーセにこう告げられた。

ーレビ 25 : 2ー

「イスラエルの子らに告げよ。 わたしが与えようとしている地にあなたがたが入ったとき、その地は主の安息を守らなければならない。

ここでもう一度、私たちが話した通り、主はモーセに直接語りかけておられます。今回、主は私たちに 地理的場所のようなものを与えられた。これには理由があります。それは、私たちに、時間的な隔たりはどれほどかを思い出させるため。エジプトを出て以来、あるいはエジプトから解放されて以来の。それが重要です。なぜなら、これからモーセに語られることはすべて、主が民に与えようとされた土地に彼らが入るまでは起こらないから。ついてきていますか？（会衆：はい。）

主のものである借り物の土地に。私はこれを強調したいと思います。理由は、これは神のご栄光のための神の土地です。その土地が意味することの故に。だから専門的なことが必要なのです。メッセージを見逃さないために、専門的でなければなりません。私たちがイスラエルの祭りと呼ぶのと同じことです。よく耳にしますね。でも、それは彼らではありません。彼らではありません。聖書には、それらは「主の祝祭」と書かれています。それで事態は変わります。だから、私たちは時に注意しなければなりません。そうでないことの方が多くいでしょうが。このように、もし彼らが主の命令に従うなら、主が言おうとされていたことに関して、彼らは祝福されるでしょう。そうすると、神にご栄光をもたらします。つまり、この土地は彼らの益のため、神のご栄光のためでもありました。その理解を私たちは持つべきで、この土地が主のものであることを認識せねばなりません。それが原則です。安息年に関しては、「申命記 15 章」に、「レビ記」にはない詳細が書かれています。そこは見ません。皆さんのために言っておきます。－（笑）－

しかし、それを読むと、神がどれほど素晴らしい方がわかります。まるで加える必要があったかのように加えています。その詳細には、子供たち、イスラエルの子らに、借金があるすべての人々の借金を免除することさえ含まれます。家族の借金を免除することは、「主の解放」と呼ばれました。わかりますか。適正な所有者を定める。「主の解放」です。そうすることで、やりたいかやりたくないかの決断を私たちがする必要がなくなります。考えてみてください。これが神の民に実践されるとき、社会的にポジティブな影響をもたらされることを。この安息年は、貧しい人々に恩恵を与えた。契約奴隷への自由の機会、そして、聖別の掟。これはすべて民のためでした。そしてまた、神の御思いは、民が神に従ったときに民を祝福することだったことは明らかです。神のご栄光が、他の国々にも示されます。これについては、祈りつつ、時間があるなら、また後で触れます。また、2 節にあるこの詳細にも注目してほしいと思います。神は仰います。

「その地にあなたがたが入ったとき」わかりますか？（会衆：はい。）「その地にあなたがたが入るなら」ではありません。「あなたがたが、あれやこれやをするなら」、そうすれば、その土地に入れる」ではありません。違います。主は仰います。「その地にあなたがたが入ったとき」それはとても励みになるはずですよ。それはポジティブです。それが起こる。それは私たちにとって励みになるはずですよ。なぜなら、これらすべてに基づいて、私たちは、主が約束を守られたことが分かり、主がその言葉を守られることも分かるから。でしょ？ だから、全ご計画がそうであることを、私たちはいっそう励みにすべきです。私たちはそれがどうなるか知っています。また、その土地に入ることに、この真理は「ヨシュア記 5 章 12 節」にあります。神の御言葉をお読みします。

－ヨシュア 5：12－

マナは、彼らとその地の産物を食べた翌日からやみ、イスラエルの子らがマナを得ることはもうなかった。その年、彼らはカナンの地で収穫した物を食べた。何が起きたかわかりますか？ つまり、この時点から土地の安息年に関する時計が動き始めたと考えられています。また、これは戒めが与えられてから約 40 年後の出来事でした。モーセからそれを聞いた人々のほとんど全員が、その土地に辿り着けなかった。にもかかわらず、神は約束を守られる。そのことを心に刻み、思いに留めておく必要があります。では、3 節から 7 節までを読んで、この安息日に課せられているいくつかの条件に、ここで触れてみましょう。神の御言葉をお読みします。ゆっくり読むようにします。

－レビ 25：3－

六年間はあなたの畑に種を蒔き、六年間ぶどう畑の刈り込みをして収穫をする。

－レビ 25：4－

七年目は地の全き休みのための安息、主の安息となる。あなたの畑に種を蒔いたり、ぶどう畑の刈り込み

をしたりしてはならない。

ーレビ 25 : 5ー

あなたの落ち穂から生えたものを刈り入れてはならない。あなたが手入れをしなかったぶどうの木やぶどうも集めてはならない。これは地のための全き休みの年である。

ーレビ 25 : 6ー

地の安息はあなたがたに食物をもたらす。すなわち、あなたと、あなたの男奴隷と女奴隷、あなたの雇い人と、あなたのところに在住している居留者のため、

ーレビ 25 : 7ー

また、あなたの家畜と、あなたの地にいる獣のために、その地の収穫はすべて食物となる。

さあ、いきます。先ほど簡単に述べたように、イスラエルの子らは、作物を食べることはできましたが、刈り取ることはできませんでした。彼らは完全に主に頼ることになりました。もう仕事はありません。でしょ？ 彼らが霊的に主に近づいていると私が話したとき、この年は、国民、全国民、すべての民が集まり、彼らの神である主に聞き、学び、主を畏れるべき年として言及されています。皆さん、聞いていますか？ (会衆：はい。) 日曜日、神から聞き、学ぶことについて少し話しました。なぜなら聖典に、神に聞き、学ぶものは皆、贖い主のもとへ行くからです。行きます。しかし、それは意志に基づく行為です。で、このことは「申命記 31 章」10 節から 13 節に具体的に記されています。御言葉をお読みします。

ー申命記 31 : 10ー

モーセは彼らに命じた。「七年の終わりごとに、すなわち”免除の年の定めの時”、仮庵の祭りに、(↑分かりましたか?)

ー申命記 31 : 11ー

イスラエル全体が、主が選ばれる場所に、あなたの神、主の前に出るためにやって来たとき、あなたはイスラエル全体の前で、彼らの耳にのみおしえを読んで聞かせなければならない。

ー申命記 31 : 12ー

民を、男も女も子どもも集めなさい。あなたの町囲みの中にいる寄留者も。彼らがこれを聞いて学び、あなたがたの神、主を恐れ、のみおしえのすべてのことばを守り行うようにするためである。

ー申命記 31 : 13ー

これを知らない、彼らの子どもたちもこれを聞き、あなたがたがヨルダン川を渡って所有しようとしている地で、彼らが生きるかぎり、あなたがたの神、主を恐れることを学ばなければならない。」

これが分かりますか？ 神は、すべての人々に、神の話を聞き、学ぶ機会を与えることで偶然を何一つ残されなかった。そして、神はこんにちも、それを続けておられます。「レビ記」とは違って、神はモーセにこう仰られました。10 節を見てください。「モーセに民に告げるよう命じられた。」素晴らしい詳細です。これはモーセが死ぬ直前のことで、何を示しているかわかるでしょ。これは、モーセが主ご自身からどれだけ多くのことを聞き、学んだかを示しています。そして今、彼は御霊によって語り、彼が語ったことはまさに神の託宣となります。主と共に時間を過ごすと、こういうことが起こります。特に指導者が年齢を重ねるにつれて、このような成長を目の当たりにすることは、私たち全員を勇気づけるはずですよ。考えてみてください。モーセは、まだその瞬間に、主に仕え続けていた。私たちはそのために祈るべきです。安息日を守ることに付随するもうひとつの重要な要素は、イスラエルの子らが食欲にならないようにすることでした。聞いてますか？ 聖書に、食欲は偶像礼拝の一形態で、主にとって憎むべきものだとして記されています。ですから再度、神の命令は優しい戒めです。神の、民に対する愛が故に。すべては彼らのため、私たちのためでもあります。で、悲しいことに、結局のところ聖書に、イスラエルの子らが安息年を守らなかったことが記されてい

ます。これが、イスラエルの国が捕囚となった大きな理由です。考えてみてください。この神の統治システムを守らないことで、食欲が生まれ、腐敗が入り込み、そして貧困が蔓延した。それがどんどん成長していき、そして、さらなる衰退とともに社会的苦悩を抱えることになった。最も悲惨だったのは、主の民への寵愛が取り除かれたことです。これらはすべて、彼らが聖なる安息日、あるいは安息日の神聖さを守らなかったことに起因します。先に進む前に、聖書の中で召された安息日は、週のうちの安息日だけではなかったことを私たちが気づくよう願います。ついてきていますか？ ここでそれが分かりますね？ だから、安息日が1つしかない、一部の人が注目するのは皮肉だと思います。安息年を守らなかったことが、バビロン捕囚に大きな役割を果たした事に気づいていないのです。分かりますか？（会衆：はい。）それに戻ると、私たちは、自分たちが守りたい律法の一部を選び、そしてそれにタイトルをつける。「それが私たちのミニストリー、安息日のミニストリーだ！」おお、じゃあ、見てみましょう。1つじゃないから。だから恵みが必要なのです。「第二歴代誌」36章21節に記されています。神の御言葉をお読みします。19節から21節です。

#### 一II 歴代誌 36：19ー

神の宮は焼かれ、エルサレムの城壁は打ち壊され、その高殿はすべて火で焼かれ、その中の宝としていた器も一つ残らず破壊された。

#### 一II 歴代誌 36：20ー

彼は、剣を逃れた残りの者たちをバビロンへ捕らえ移した。こうして彼らは、ペルシア王国が支配権を握るまで、彼とその子たちの奴隷となった。

#### 一II 歴代誌 36：21ー

これは、エレミヤによって告げられた主のことばが成就して、この地が安息を取り戻すためであった。その荒廃の全期間が七十年を満すまで、この地は安息を得た。

つまり、この70年間とは、490年間安息日を守られなかったことを示しています。安息年は490年間守られなかった。基本的に、ダビデ王の時代からですよ。追放されるまでずっと。イスラエルの子らは、この地を休ませ、主の解放に従うことができなかった。考えるべきことがあります。繰り返します。これが、異教的な習慣がイスラエルの子らの心や思いに入り込み、偶像礼拝、子供のいけにえ、性的不道徳が増えた理由の一部です。またその一部は、彼らは自分たちの神、主を畏れることを聞かず、学んでいなかったから。

では、彼らが安息日を絶えず守らなかったなら、一貫して、彼らがヨベルの年を守るとはとても思えません。ついてきていますか？「レビ記25章」8節から10節に記されています。御言葉をお読みします。

#### 一レビ 25：8ー

あなたは安息の年を七回、すなわち、七年の七倍を数える。安息の年が七回で四十九年である。

#### 一レビ 25：9ー

あなたはその第七の月の十日に角笛を鳴り響かせる。宥めの日に、あなたがたの全土に角笛を鳴り響かせる。

#### 一レビ 25：10ー

あなたがたは五十年目を聖別し、国中のすべての住民に解放を宣言する。これはあなたがたのヨベルの年である。あなたがたはそれぞれ自分の所有地に帰り、それぞれ自分の家族のもとに帰る。

これは、7つの安息年があり、それは私たちが見た49年に相当し、50年目はヨベルの年です。これは、多くの教会で行われているような、催しやゲームなどを楽しむヨベルとは違います。そういうことではないと言っているだけです。先週は贖罪の日についても話しましたね。そのことから、私たちはそれが重大な出来事だったことが分かります。それは最初の数日間から始まって、喪に服し、断食する。このヨベルに付随して、大きな祝典が行われます。それが意味することの故に。基本的に、何人かには、これは一生に一度しかない回復の機会でした。将来への希望となるような形での回復です。特に、彼らの人生が貧困や誤った決断

にまみれている場合はなおさらです。そして、再度、はっきりさせておきますけど、これは神の神聖なシステムです。神聖な経済システムは、神だけが管理されます。ついてきていますか？（会衆：はい）

無理のない資本手段を提供し、同族所有権を維持することで社会主義的な手段を防止する。でしょ？ つまり、自分の持っているものを大切にしない人がいますか？ 分かりますね？ 社会主義は政府が所有しています。だからビルは崩壊します。誰のものでもないから。そうでしょ？ レンタカーを借りに行く時も同じです。—（笑）— 私が何を言っているか分かるでしょ。レンタカーしてスピード出さない。もう少し早く走れない？ マジにやってるの？ 恥を知るべきです！ —（笑）— いえ、冗談です。実際、そう、軍にいた時、一度だけワシントン DC に飛んだことがあります。レンタカーで早くさせ走れません。なぜかわかります？ 2 気筒みたいだから。そう、「原始家族フレッド・フリントストーン」（アニメ）みたいなジョイントでしょ。到着して、レンタカー屋に行ったらうわ、びっくりしました。「あなたの予約がありません。」何かたまたまキャンセルされたようで、おお、なんということ。おお。。すると後ろにいた男性が、

「あの～それでしたら、無料で、代金は変わりませんので、（何という車名だったっけ？）ドッジ社のチャージャーならあります。ヘミエンジを搭載していますので、ご乗車ください。」—（笑）—

「本当ですか？」「はい！ こちらの間違いでしたから、どうぞ御気遣いなく。」あれに乗った時、ええ～！！  
395 高速に入って、周りを見渡しながら、「もう夜も遅いしな～。こいつに何ができるのか、ちょっと見せてもらおうと。」おお、なんということ！ 自分が怖くなりました。—（笑）— でもポイントは、自分の車で決してしませんよ。—（笑）— おっと、ほら、そんな話をしちゃったね。とにかく、では、そう、自分の持ち物だから、大事にする。自分が所有するものは、自分で管理するのが普通です。だから、こんにちで比較するなら、世代を超えた富は、家を所有することでもたらされます。欧米ではそう言いますね。そして、イスラエルの子らにとって、土地という財産を持つこと、つまり土地の所有権がそうでした。そしてもうひとつ、このことに関連し私たちが理解しなければならないのは、神は決してご自分の民が貧困にあえぐことや、貧しくなることを望まれませんでした。決してそういう意図はあられません。神はいつも貧しい人々に語り、貧しい人々に気を配られ、神の御言葉に従って私たちも同じようにすることを望んでおられます。だから、彼らが御言葉に従ったなら、イスラエルの子らが貧しい社会に悩まされることはなかったでしょう。この御言葉はよく知られています。「**貧しい人が国のうちから絶えることはないであろう。**」（申命記 15 : 11）

「申命記」15 章 4 節と 5 節、以下、神の御言葉は語ります。

#### 一申命記 15 : 4—

**もつとも、あなたの神、主が相続地としてあなたに与えて所有させようとしておられる地で、主が必ずあなたを祝福されるので、あなたのうちには貧しい人がいなくなるであろう。**

#### 一申命記 15 : 5—

**ただしそれは、もしあなたが、あなたの神、主の御声に確かに聞き従い、私が今日あなたに命じるこのすべての命令を守り行ったなら、である。**

これがわかりますか？ 会衆：はい。再度、貧困は神の意図ではありません。貧しいこともです。しかし、彼らは神の戒めに従わねばなりませんでした。貧しいことは悪であることがわかります。悪魔はそれを利用します。貧しさの大半は、他人の食欲から来るものだからです。食欲だけではなく、行いになります。神は、彼らとその掟を守らないことをご存知でした。それが貧しい人々がその土地から決していなくなる理由です。神はその恵みの中で、どう対処すべきかを、貧困と貧しい人々に数え切れないほどの方向性を示されました。結論はこうです。神は私たちが想像する以上に貧しい人々を大切にされます。恥ずかしいことです。特に欧米では。神が実際にイスラエル全体を裁かれたことがわかります。彼らが貧しい人々を酷使していたからです。神はこれからも裁かれます。神は貧しい人々の叫びを聞かれます。聖書はこう語ります。神はさばきを行ってくださいます。（ルカ 18 : 8 参照）

終わりに。お話ししたように、土地とその所有は、人々が負債を清算する能力を維持し、貧困と闘う方法を提供し、貧困に陥らないようにする上で大きな役割を果たしました。これを説明します。土地を持っていれ

ば、借金の清算のために、再び交渉の手段として使うことができます。どんな理由であれ、お金が必要な時が来たら、土地の所有者は自分の土地の一部を売ることができ、そして、必要な時はいつでも資金を得れます。その方法は、その土地の一部を最も近い親戚に売ることでした。そうすることで、その人が資金を調達できた時、あるいはその時期が来たら、土地の買い戻しが容易になります。それがうまくいかなかったら、聖書によると、最も近い親戚が彼を労働者として雇い、同時に無利子で貸し付けました。わかりますか？ 無利子融資。借金の返済を援助するためです。これがわかりますか？ これが親戚です。どれだけ家族が関与していたかがわかりますか？ この地域社会が、特に家族に関してどれだけ固い絆であるべきか？ つまり、家族が家族の浪費癖のある側面を知っているということ。おお、もちろん。でしょ？ それは多くの点で賢明な助言につながり、間違った投資を防ぐことになります。これは、このすべてによって意味がありました。多くの方法で、国を発展させながら、人々に責任を負わせるために神によって設計されました。もしこの方法で負債を売ることができなければ、イスラエルの子たちは互いに自分売ることができました。契約奴隷として。私たちは彼らを年季奉公奴隷として知っています。このことについては、奴隷制度に関する話題を扱ったときにも話したし、学びでも取り上げました。しかし、奴隷のように扱われることは全くありませんでした。家族なので、彼らは敬意をもって扱われ、財産として売られることはありませんでした。誰も自分の家で生まれた者に対して権利を持つことはありませんでした。それが彼らの子孫でした。ついてきていますか？ ここで違いがわかりますか？ この愛に満ちたレベルの保証はすべて、人々が貧しく貧困になるのを防ぐために置かれました。これは多くを語ります。それは地上のあらゆる政府システムを砕きます。神がその中心におられたからです。これは私がよく言うことですが、今夜も言います。人間は自らを律することができない。真の生ける神がおられないなら、すべてが崩壊します。それは時間の問題です。さて、ここで「ヨベルの年」です。他のすべてが失敗したとしたら、話したばかりですが、負債という悪の罠に陥ることから誰かを守ることができませんでした。ここに、主からの驚くべき備えがあります。土地だけではなく、その土地に関するすべての財産を元の所有者またはその子孫に回復しました。たとえそれが近親者によって買い戻されたとしても。そのことがわかりますか？ 土地の所有者が誰であるかを忘れないでください。土地は神のものです。部族に貸与されただけです。その土地が永久に売却されるのを防ぎ、神が仰ったように、市場の独占、貪欲になることから防ぎました。前述したように。最終的に、苦境に陥ったため、あるいは不利な商取引のせいで土地を売った家族のためにこのことが道を開き、彼らは代価で土地を買い戻す能力を持ち、それは次の「ヨベルの年」までの期間に基づいて計算されました。この例をできるだけシンプルにしたいんです。もしヨベルの年が過ぎたばかりで、私が行って土地を買い戻したいなら、1年に1ドルなら、50ドルになります。次の「ヨベルの年」まで50年だからです。でも、もし10年先の話になったら、あなたは私に10ドル払うことになります。わかりますか？ 主を称えます。計算あってますね？

— (笑) — それは恥ずかしいことです。理解されましたね。しかし、重要なのは、近親者によって買い戻されねばならないこと。買い戻しの権利を持つ近親者。おお、同意しますね？ これがわかりますか？ 再度、これがボアズの記述が重要な理由です。ゆっくりと進みたいのは、何が起こったかを見逃してほしくないからです。ボアズの取引は最終的に、ボアズが買い戻した土地は、他の誰も所有権を主張することができませんでした。ボアズが築いた方法ゆえに。取引は見事でした。ボアズは買い戻しの花嫁のおかげで、買い取った土地がボアズ一族側に留まるのを保証できました。聞き覚えありますね？ 誰も私たち、或いは被造物全体に請求できないのを知っているからです。しかし、イエスは、私たちがその血潮によって買い取られたように、私たちが贖ってくださいました。イエスは永遠であります。どうです？ それは永遠に続きます。神の所有物は引き渡されることはありません。ついてきていますか？ それが私たちのイエス、すべての贖い主であります。ご存知の方も多い「ルツ記」の話です。買い戻しの権利を持つ近親者は素晴らしいです。ボアズがしたことは、私たちの買い戻しの権利を持つ近親者であられるキリストの型で、独創的でした。それを手短かに説明したいのです。加えて、この土地がどのように買い戻されたのかという裏話がある時、ヨベルの年、あるいはそれ以前、その時間枠というような、彼はそれをどのように行ったのか？ これは全て神の御方法です。それが私たちにさせるのは真の生ける神に畏敬の念を抱くようになる。で、どうなったかという、手短かに短時間で、、、ナオミですね？ 夫は死に、二人の息子も死にました。わかりますか？ ここまでいいですか？ どうやらナオミは、売った土地を夫から引き継いだようです。ナオミの夫は実はボアズと親族です。いいですね。が、ここで、ナオミは反対側に親しい親族がいるようです。いいですね。で、ボアズは行って、門のところで長老たちに会いました。(ルツ 4章参照) ボアズは近づき、こんな風に、「あの、話があります。この土地欲しいですか？ 彼女がここに帰ってきたからです。彼女がこの土地に戻って

います。私はその土地を買い戻したいのです。あなたが買い戻さないなら。その土地を買い戻したいですか？ 土地を買い戻したければ、皆に知らせてください。」この親戚はこう言いました。「はい、私は土地を買い戻したい。」ボアズはこう言います。「わかりました。長老たちのところに行って、このことを実現させ、買い戻しましょう。」で、彼が最初にそれを知った時、、、彼はこの視点から見ているからです。「私がこの土地を買い戻したら、ナオミは子供をもつことはできない。ナオミは出産適齢期を過ぎている。ヨベルの年が来たら、その土地は私の一族に受け継がれる。で、私はその土地を購入し、こちら側の一族に残すことができる。」ついてきていますか？ そうしようと決めたとき、ここでボアズが言います。「でも、でも、でも、でも、ルツを連れて行かねばなりません。決まりだから。」彼らの血統を通さねばなりません。その名を残すことができるように。「つまり、土地を買うだけでなく、ナオミとルツの面倒を見なければなりません。その日の終わりに、土地を失いますよ。わかりますね。」基本的にはそういう流れでした。ついてきていますか？

会衆：はい。おお、なんてこと。言い換えると、この近親者はルツ付きの土地を買い戻すために、自分の遺産の一部を失うことになります。他の誰かの一族のために。彼はそれを望みませんでした。ここにも1つあります。それを見るなら、この近親者をアダムとして見ることもできます。アダムは挽回できませんでした。それをするには買い戻しの権利を持つ近親者が必要でした。すべての条件を守るためには。ついてきていますか？ ボアズはそれを知っていました。彼は知っていた。これが、「ヨベルの年」が非常に影響力の強い理由の1つです。そのための手段さえあれば、いつでも土地を買い戻せる道が常に用意されていたからです。もちろん、ボアズがしたことがわかります。「ヨベルの年」には霊的な何かがあります。安息年のように、2年間土地を休ませるのは無理があると考えたら、ヨベルの年には3年間、ほぼ4年、土地を休ませなければならなかったからです。ここで人々がこれを聞いてどう感じたか想像してください。主はその全ての年、彼らにマナを提供されました。ですから、神が自分たちを養ってくださるということ、実際に信じてきたのだと思います。神はすでに証明されています。実際、先にも述べたように、御言葉に記されています。（「レビ記」25章）20節から22節、神の御言葉を読みます。神は質問に答えてくださいます。

#### ーレビ 25：20ー

あなたがたは、『もし私たちが種を蒔かず、また収穫もしないなら、七年目には何を食えばよいのか』と言うであろうが、

#### ーレビ 25：21ー

わたしは六年目に、あなたがたのためにわたしの祝福を命じ、三年分の収穫を生じさせる。

#### ーレビ 25：22ー

あなたがたが八年目に種を蒔くときにも、前の収穫をなお食べている。九年目まで、その収穫があるまで、なお前のものを食べることができる。

これこそが神のご本質です。神は私たちをお見捨てになりません。神は、物事がどうなるかを私たちが推測するのを望んでおられません。特に、神の命令に従うよう語っておられる時は、神の御言葉は十分です。神は全てを通し、それ以上のものを私たちに与えてくださいます。これが私たち全員が素早く理解する必要があります。より速く、より良く。主が語っておられることを信頼する。私たちは簡単に彼らを見下せますが、そうすべきではありません。彼らは数々の奇跡を見、マナを食べた後でも信じない。話しましたね。が、私たちもそのようです。私たちも同じです。彼らがしたのとまったく同じ理由で、私たちは不信仰の犠牲になります。安息日を守らなかった根本的な原因を考え戻るとわかるからです。食欲さがどれほどこのことに関与していたかに私たちは気付きます。それについて考えてください。彼らの土地の作物は素晴らしい利益をもたらしました。彼らはそれを減らしたくありませんでした。わかりますね？ 資金が潤沢にあることで、多くのことに執着するようになりました。私たちはどうですか？ でしょ？ 物や作物ではなく、神に頼り続ける必要があります。ですね？ 私たちは生産者（神）ではなく、生産物にこだわっています。そう、もちろん賢明なのは、私たちは常に主に頼る必要がある。また、安息年とヨベルの年が守られていれば、これは多くの予防措置の1つでした。それで解決したでしょう。私たちには、他にも注意すべき点や振り返るべ



き点があります。これらをさっと学びます。神の命令・戒めに従うということが、いかに真の意味で社会の正義を促進するかが語られているのかがよく分かります。社会の正義なんてくだらないと言っているんじゃないよ。こんにち、彼らが話しているのはゴミですけど。そういうものではありません。神の社会正義です。でしょ？ 私たちは、貧しい人々がどう世話されるべきかについて話したからです。同胞を奴隷にすることは禁止です。金銭的に誰かを利用することもできませんでした。社会階層内で大きな格差を生むことなく、個人が富を増やす方法で。つまり、金持ちはより金持ちになり、貧乏人はより貧乏になる意味で。それが今起こっています。家族は家族に責任を押し付け、そして、人々は人々に責任を負わせる。すべては主の命令によってもたらされることで、それを実行することによって、彼らは祝福されたでしょう。これらの年はまた、主への献身的で適切な礼拝を促進する年でもあります。なぜか？ それが生活様式になったから。分かりますか？ これが私たちの生き方です。常に神を礼拝すること！ 私はこの指摘の仕方が好きです。特に 25 章を読むとわかるのが、そうすれば、神のご性格の側面について、少なくとも 5 つの恵みを見つけられるからです。それはご自分の民に愛を込めて叫んでおられる。私たちには分かります。神がご自分の民に語りかけられるとき、読み続けてください。神が民を大切にしていることがわかります。そして、民を養われ、神はご自分の民を所有し、民に豊かな未来を与えられる。私たちの神について、このことを理解してください。私たちはそれにどう答えるべきか？ 私たちは、神がそうであられるから、神を礼拝すべきなのです。神の社会正義と協調し、このシステムは慈悲と真実を促進します。この章を読むと、誰かがどう苦境に陥ったのか、あるいは自分自身が苦境に陥った人に、どんな制限をしたのか、といった話は一切出て来ないことに気づきます。言い換えれば、主は、怠け者だったり、不正直だったり、あるいは放蕩息子だったために人生を台無しにしたであろう人々を、決して区別されなかったのです。私の言っていることが分かりますか？ 真の神の御言葉は、無知に、たとえ意志からの無知であっても、常に打ち勝ちます。神は誰でも回復させることがお出来になります。そして聖書は、憐れみにおいて神の御座があることを語ります。神は真理で、その上に座しておられます。これらの出来事には、絶え間ない希望の促進も見て取れます。繰り返しますが、主の解放を必要としている人々に、自分たちが生きている間に、それが起こり得ます。考えてみてください。何度もそれが起こる人もいます。でしょ？ そして、こんにちの私たちにとっても、それは来たるべき希望を思い起こさせるものとなっています。事実、「ヨベル」の言葉は、雄羊の角笛やラッパを意味します。この言葉には、笛を鳴らすという意味が込められています。でしょ？ それは、私たち一人ひとりに祝福された希望を思い起こさせるはずですよ。

**号令と御使いのかしらの声と神のラッパの響きとともに、主ご自身が天から下って来られる時を。(Iテサロニケ 4 : 16)**

(会衆：はい！) それで、このすべてがイエス・キリストのヨベルを指し示し、促進していることがわかります。イエスの宣教（ミニストリー）は、これらの出来事に見られる全てを捉えていて、そしてそうになりました。事実、イエスがミニストリーを始められたとき、「イザヤ書」からこの言葉を語られました。61 章 1 節と 2 節の前半です。神の御言葉をお読みします。

**ーイザヤ 61 : 1ー**

**神である主の霊がわたしの上にある。貧しい人に良い知らせを伝えるため、心の傷ついた者を癒やすため、主はわたしに油を注ぎ、わたしを遣わされた。捕らわれ人には解放を、囚人には釈放を告げ、**

**ーイザヤ 61 : 2aー**

**”主の恵みの年、われらの神の復讐の日”を告げ、(すべての嘆き悲しむ者を慰めるために。)**

この喜ばしい定められた主の年は、神の民の回復を指し示しています。それが「ヨベル」です。これがその理由です。それが御思いです。でも、それは人々の従順さに懸かっていました。それが分かりますか？ しかし、イエスが主の定められた年を完全に確立される時、その完全な回復の結果は、人間ではなく、人の子（イエス）だけにかかっています。そして今も、イエスを信じる者は皆、罪の負債を赦されています。考えてみてください。私たちは、真の生ける神との交わりにおいて、完全に回復されたのです。もうまもなく、キリストは来られます。そして最後に、それが究極の新たにされる時となり、すべてのものが回復します。締めくくりにあたって、神がご創造と休息に関して、「7」という数字を用いておられることから、神のこの

側面について考えたいと思います。画面を見てください。創造は6日間続き、その後、主はその業から休まれました。ですね？ だから、その休息日は、安息日として人間に与えられました。つまり、この図を見本として、人間は6日間働き、安息日、つまり7日目に休む。ですね？ そして、イスラエルの子らは、6年間その土地を耕すことになっていました。そして7年目に休む。安息の年に。約6000年もの間、罪が地球全体にどのように作用してきたかを重ね合わせてみます。私たちは聖句から、千年王国が地上にとって休息の日となることを知っています。分かりますか？（千年王国は）王の王として、主が統治されます。

7 x 1日 = 7日 7 x 1年 = 7年 で、考えてみてください。7 x 1日、主にとって1000年は1日です。（IIペテロ3：8）つまり、7000年です。どれほど私たちは近づいていますか？ でしょ？

そして、この安息期間のヨベルにこそ、私たちは、休息する必要があります。会衆：そうです。これが、「ヘブル人への手紙」の書き手が4章8節から10節の御言葉を書いたとき強調したことです。御言葉をお読みします。

ーヘブル 4：8ー

もしヨシュアが彼らに安息を与えたのであれば、神はその後に別の日のことを話されることはなかったでしょう。

ーヘブル 4：9ー

したがって、安息日の休みは、神の民のためにまだ残されています。

ーヘブル 4：10ー

神の安息に入る人は、神がご自分のわざを休まれたように、自分のわざを休むのです。

ポイントは？ 私たちの究極の安息は、究極の安息を与えてくださる唯一のお方への信仰によってもたらされます。皆さん、分かりますか？ 繰り返します。ですからイエスは、ご自分のところに来る全ての人にこう仰るのです。主が彼らに休みを与えられる。（マタイ 11：28）

そういう意味です。だから私たちは皆、安息で、ヨベルで、イエス・キリストのもとで休むべきです。ご起立ください。カポノ、上がってきてください。祈りましょう。

天のお父様。主よ、あなたの真理の御言葉に心から感謝します。あなたの御言葉は、素晴らしいというのは控えめな表現です。私たちは、あなたの聖霊の御力によって毎日新鮮な目覚めをし、あなたの事柄を渴望し、何度も何度も繰り返し、それを愛し続けますように。主よ、この学びを私たちの心と思いと魂に祝福してください。私たちが前進し、クリスチャンとして生き抜くことができますように。あなたの聖霊の御力によって、あなただけがお出来になることを感謝します。あなたのご忠実にそうなることを私たちは知っています。イエス・キリストの力強い御名によって祈ります。アーメン。

---

メッセージ by JD Farag 牧師 カルバリー・カネオヘ

<http://www.calvarychapelkaneohe.com/>

Calvary Chapel Kaneohe 47-525 Kamehameha Hwy. Kaneohe, Hawaii 筆記 hukuinn7